

大学院の学位論文に係る評価基準

研究科・専攻	修士論文の評価基準
看護学研究科 看護学専攻	1. テーマ設定の適切性 ・ 明確な問題意識に基づき、テーマが設定されているか。 ・ テーマの探究に適したリサーチクエスチョンが明確に設定されているか。 ・ 先行研究を十分に検討し、自分の研究を適切に位置づけているか。
	2. 研究方法の妥当性 ・ 研究の目的に照らして、妥当な研究方法が用いられているか。 ・ 研究方法の示し方が十分かつ明確であるか。 ・ 分析方法は妥当であるか。 ・ 研究の方法及び対象に対して倫理的配慮がなされているか。 ・ 研究倫理の確保について明確に記述されているか。
	3. 結果・考察 ・ 量的研究の結果は、図表を含め適切かつ明確に示されているか。 ・ 質的研究の結果は、十分に分析され説得力をもって記述されているか。 ・ 考察は、結果に基づいて議論され、説得力をもって記述されているか。
	4. 論旨の一貫性 ・ 研究目的、研究方法、結果、考察、結論までの論旨に一貫性があるか。
	5. 構成・表現・表記法 ・ 修士論文作成要項に則って作成されているか。 ・ 文章は文法的・語法的に正しく、明確かつ適切な表現で書かれているか。 ・ 誤字、脱字、口語表現の混入はないか。 ・ 図表は、適切な位置に配置され、適切な番号、タイトル、注釈がついているか。 ・ 文献は、必要な書誌情報が網羅され、規定どおりに記載されているか。
	6. 貢献度 ・ 看護学に対する研究目的の意義が明確か。 ・ 成果に看護実践への貢献や今後の発展が認められるか。
	7. 口頭試問 ・ 研究内容を分かりやすく説明できたか。 ・ 説明資料が適切か。 ・ 質疑に的確に回答できたか。
臨床心理学研究科 臨床心理学専攻	1. 臨床心理学研究として、適切な先行研究を踏まえた課題提起がなされている。 2. 事実の検証およびデータの分析において信頼性と妥当性が保たれている。 3. 研究方法およびデータの扱いにおいて、臨床心理学研究としての十分な倫理的配慮がなされている。 4. 臨床心理学の発展に寄与する妥当な考察がなされている。 5. 論理構成が適切であり、学術論文としての形式が順守されている。 6. 修士論文について、分かり易く適切なプレゼンテーションができる。 7. 修士論文に関する質疑に対して、適切かつ十分な応答ができる。